

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 たんぼ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450-1		
自己評価作成日	平成22年9月29日	評価結果市町村受理日	平成23年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人が自分らしく普通に生活出来るように支援している。職員自身も環境の一部である事を常に念頭においている。又、人生の大先輩である敬いの念を持って接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づき、職員全員が利用者個々に添った、型にはめない個別支援を意識しながら行っている。利用者の尊厳を重んじた言葉遣いや態度、介護の在り方についての勉強や研修が積極的に行われている。地域においても、祭りなどの行事参加や園児との交流、中学生や地域住民向けの勉強会を開き、利用者との繋がりや理解を深めている。又、避難訓練は地域と連携しながら実施しており、職員が訓練の重要性を意識しマニュアルを作成するなど取り組んでいる。昨年の期待項目であった重度化や看取りにおける指針を作成し職員全員が指針を共有しており、本人が最期まで自分らしくあり続ける人生を支援する事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた目標も具体的に掲げてあり、ホームや玄関、談話室に掲示しており、日々目にしながら介護に反映できている。	「実りたたる稲穂のようにいつまでも自分らしくあり続ける人生を送る」の理念は来訪者にも見えるように掲示し、職員は日々確認し共有している。職員は日々の介護において、型にはめない本人に添った快適な生活が出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児との交流が頻繁で中学生や地域の行事(運動会、公民館まつり)にも参加している。	地域の町内会長や民生委員が運営推進会議に参加しており、事業所と地域で情報を共有している。民生委員も事業所の身体拘束の勉強会や消防訓練に参加している。保育園児の遊戯会や中学校の介護実習受け入れ等日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃や草刈りの前の空き缶拾いに参加している。 地域の要望などの声を聞かせて頂き、事業所で話し合い、貢献できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて近況報告を行い、助言を頂いたり、地域の皆様からの意見なども聞くことができサービスの向上につながっている。 又、グループホームでの勉強会や、避難訓練にも参加いただいている。	運営推進会議は併設の系列事業所合同で2ヶ月1回実施しており、地域の保育園長を含む規定のメンバーである。事業所の様子や近況報告をしている。町内会長より「事業所協力支援のため」の地域を含む連絡網の提案があり事業所内で検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域での取り組みや行事への参加方法など支所の方に相談したり、助言を頂いたりしている。	包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、会議終了後に担当者と情報交換や悩みを相談している。担当職員から避難訓練における地域との連携の大切さのアドバイスを受けるなど市町村との協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にグループホーム全体で勉強会を行い、理解に取り組み、拘束ゼロに向けケアを行い、拘束委員会も立ち上げている。	年2回身体拘束における勉強会を行い、職員は周知している。系列事業所合同で拘束委員会を立ち上げており、ホーム長が中心となって身体拘束における具体例をあげて、意見交換をし共有している。ベッド柵利用者においては家族と相談し外す工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にてスタッフ全員の理解を得ているし、外部研修にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に思いを知るために傾聴し又、説明を細かく行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に必ず話しやすい状況を作り、悩みや相談に乗るようにしている。	家族の面会が多く、来訪時には利用者の居室で面談を行い、利用者の近況報告や家族の要望、意見等を聞くようにしている。来訪が困難な家族へは電話をかけ要望等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時に意見交換を行い、必要な時は時間を設け話し合っている。	職員は朝のミーティングや申し送り時に意見交換をし内容を共有している。意見や要望等は月1回の管理者会議で検討されている。支援に必要な備品供給や職務体制の変更、改善等の提案があり、検討し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや申し送り時に調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部問わず、自身のスキルアップの為に積極的に参加するように指導している。又、意見交換も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の管理者会議に出席したり、連絡協議会主催のさまざまな勉強会に参加し、交流の機会を多く持ち、意見交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと取るためにも本人や家族からの情報に耳を傾け共感し、フェイスシートにも反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望などないか、常にお尋ねし、話しをする機会を設け、思いを受け止め安心して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を含めた家族との話し合いの場でその時の状態に合わせた対応ができる体制作りにも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳と敬愛を持って人生の先輩として接する事を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて常に要望などお尋ねしたり、相談したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が会いに来て下さる事が本人の精神的ケアに充分必要である事は了承している為、会いに来やすい雰囲気作りを心がけている。	面会には家族や子ども、孫、地域の友人の来訪がある。家族の協力のもと外出や外食に出かけたり、来訪が困難な場合は家族から電話を入れてもらっている。ドライブでは車椅子の方を乗せて、自宅や知人周辺まで出かけるなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	輪を大切に、何かする時には必ず参加をつのり、お互いを意識し支え合って生活していく事ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	つながりを大切にし、行事等のお知らせを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に考え本人の望む暮らしに添えるようスタッフ、家族も交えて話し合い、個人の思いを大切に考えている。	職員は利用者に寄り添いゆっくりとゆとりのある介護を目指している。職員は利用者の生活歴や日頃の様子を共有しており、会話のきっかけ作りに役立っている。困難な方場合は声かけや傾聴にて利用者の個々の思いに添うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話しを聞く機会を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の状態を把握し、その方に合った生活リズムが送れるようにチームケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間での情報交換や、本人、家族から意見を聞きながら、その方に合った計画を作成するようにしている。	ケアマネージャーが訪問時や電話で家族から要望を聞き取っている。ミーティング時に職員の意見を聞き、医師の指示なども反映させた介護計画案を作成している。計画案は家族に説明し、同意を得ている。見直しは状況に添って行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やバイタル表等の記入及び申し送りノートを活用し、スタッフ間での情報を共有できるようにし、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の学生さんや園児達の受け入れとヘルパー養成等の受け入れも行っている。又、本人の希望により外食、ドライブ等へ出掛けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力を得て、有事に備え避難訓練・救命講習を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である梶田医院を主治医とし、受診・定期的往診を受け、連携に努めている。 又、本人・ご家族の希望により、他医療機関での受診・往診もされている。	入居前に利用者や家族に、事業所の協力医を説明し変更の同意を得ている。他のかかりつけ医の継続は家族に受診介助の協力を得ており、受診後の報告は記録し職員間で共有している。協力医の週1回の往診があり、利用者ごとに対応しており、緊急時にも24時間体制で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に情報交換を行い、連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医への入院がほとんどであり、入院時も面会や病院関係者との情報交換を行いながら、早期退院へ向けて連携が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より本人、家族の意向をお尋ねしている。又、状態の変化に応じ、再度の確認と説明を行い、意向に沿えるよう取り組んでいる。	前回の期待項目であった指針の作成を行い、利用者や家族に説明し同意を得ている。職員は併設の施設職員と合同で勉強を重ねている。個々に対応できるように日々全員で利用者の安心した最期に向けて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが普通救命講習 I を受講し、備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防・地域の方と合同で夜間想定防災訓練を実施し、有事の際の支援のご協力をお願いしている。	消防署立会いの避難訓練は夜間想定を含め1年に3回地域と連携して実施している。職員は訓練の度、気づきや改善に向けての話し合い、検討している。その中でマニュアル作成などを含めた避難訓練の重要性を認識している。但し、地域を含む緊急連絡網の一覧がない。	災害時に利用者が安全に避難するためには地域の協力が重要である。依頼している地域への連絡方法は、職員全員が周知する必要があり、検討する事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として敬いの念を持ち、言葉使いや態度に日々気をつけて支援している。又、記録などの個人情報の取り扱いも特定の場所に保管・管理している。	職員は利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切にしている。目線を本人に合わせて、腰をおとしての声かけや会話をしている。個人に関する情報は家族の同意を得ており、職員の守秘義務においても誓約書をかわしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いが言えるよう傍に寄り添い、静かに優しく語りかけるなど、本人の思いに傾聴し、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様本位に立って、その人らしく生活出来るよう、一人ひとりの希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪など本人の希望に応じて、近所にある顔なじみの美容室を利用して一人ひとりとコミュニケーションをとりながらして下さっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のしたいこと、出来ることに合わせて残存能力を生かしたお手伝いを一緒にしている。又、献立作りも嗜好をお聞きし取り入れながら行っている。	毎年1回嗜好調査を行い、利用者の好みの把握に努めており、1週間の献立は職員全員で作成している。毎食検食者が味付け等を利用者に尋ねながら次の献立に活かすなど食事を美味しくする工夫をしている。出来る方には片付けなど一緒にして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた食事形態にて提供し、一日の食事摂取量や水分摂取量を把握すると共に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じて口腔ケアセットの準備をしたり、声かけや支援を実施し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレでの排泄が可能となったり、失禁が減った方がおられる。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、出来る限り尿意のない方にも早めの誘導が出来るように心がけている。各部屋に個室トイレが設置してあるため、表情や動作から察知したらすぐ誘導するなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握に努め、個々の嗜好に合わせて提供し、体操なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や状態に合わせた入浴を行うと共に、コミュニケーションの場としても楽しみの入浴として考えている。	入浴は週3回午前中を基本として、希望に応じて対応している。利用者はほとんど全員入浴を楽しみにしており、拒む場合は時間をおいたり、声かけをしている。個別の脱衣籠が置いてあったり、好みの順番を取り入れる等個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体調に合わせて午睡を取り入れたり、夜間の過ごし方を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情やお薬ノートを活用している。 かかりつけ薬局との連携・相談ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の大事な一日と捉え、スタッフと共に笑顔で生活していけるよう、一人ひとりに合わせたレクリエーションの提供や生きがいを見つけられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画の中だけでなく、体調や天候を考慮して出掛ける機会や触れ合いを考えて支援している。又、希望に合わせてドライブ外出・外食も取り入れている。	利用者のほとんどが車椅子で外出希望が少ない中、週2回の八百屋の訪問時に玄関先まで誘って見物に行ったり、花壇の花摘みや周辺の散歩をしている。また、家族の協力で外出や外食をしたり、併設施設との合同ドライブでは車椅子の方も一緒に外出するなど利用者の外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を自分で考え相談しながら買ったり、施設の物の購入も一緒にしてもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との協力の下電話をかけたり、かけて頂いており、電話があると活き活きとして話される。又、手紙への返事も促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい空間になるよう、その場に応じた対応している。	リビングは広く明るく、利用者がゆっくり出来る量の場所や、大きめのソファがあり、個々に寛げるよう工夫している。室温や換気、音楽などの音にも配慮している。壁には季節が感じられる手作りの紙細工が貼られ、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席や椅子の配置についても十分に検討し、その時々に応じた対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や愛着のある物、今必要な物を相談し持ち込んでもらっており、居室が心地よい空間となるよう配慮している。	利用者が安らげるよう使い慣れた小物や家族の写真等を置いている。事業所からの制限はなく、家族の希望で椅子やソファを置いている居室もある。居室備え付けのトイレは気になる臭いはなく清潔感がある環境を作っており、心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況に合わせて安全かつ安心して生活できるよう支援している。		